

『さくら・桜・サクラ 2007』



歌川広重
「江戸近郊八景之内 小金井橋夕照」

大判錦絵揃物の内
天保8、9年(1837~38)ころ

日本の国花でもある桜。ほかのどんな花とも違い、「開花 = 春の訪れ」を意味する、日本人にとって慕わしい桜の花を、広重の浮世絵版画で楽しむ恒例の展覧会です。

上の図版は、天保8~9年(1837~38)ころ刊行の「江戸近郊八景之内 小金井橋夕照」。玉川上水に架かる小金井橋付近の上下流2里ほどの堤には、千本を超える桜がありました。元文2年(1737)ころの植樹と伝えられます。

江戸市中から七里(30^{km}弱)ほどの小金井は、一泊の花見客が多く訪れるところでした。しかしここが花見名所となるのは、広重が生まれた寛政9年(1797)に、桜の名所として武蔵八景に選ばれてからのことです。

広重賞 第3回恵那市子ども版画コンクール作品展を同時に開催

3月15日(木) ~ 4月8日(日)

毎週月曜日(祝日を除く)

祝日の翌日(土日・祝日を除く)休館

会期終了後、4月9日(月)~11日(水)まで展示替え休館します。

次号は3月15日号
発行日は3月15日(木)です

広報えな No.54

2007年(平成19年)3月1日発行
発行 恵那市役所
編集 まちづくり推進課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1
☎26-2111 / ☎25-6150
<http://www.city.ena.gifu.jp/>
✉info@city.ena.gifu.jp

今月の表紙



2月15日、大井第二小学校4年生の児童約80人が、社会科の授業の一環で山岡町を訪れ、寒天作りを学習しました。工場内で、原料となる天草を加工する工程の説明を受けた後、突き出し作業を体験。この冬には珍しく、雪の舞う寒さの中、田んぼに並べられたすだれの上に、天筒を使って順番に慎重に突き出し作業をしていきました。児童たちは、細寒天の元となる、ところてんの『つるつる』とした感触を確かめながら、一口味見。恵那の特産品をより理解することができました。